



平静の祈り

ラインホルド・ニーバーとその時代

エリザベス・シフトン著

穂田信子訳／安酸敏眞解説

神よ、変えられないことを平静に受け入れる恵みを、
変えるべきことを変える勇気を、
そして一方から他方を見分ける知恵をわれらにお与えください。

このあまりにも有名な祈りは、第二次大戦下の一九四三年に作られた。それはどのような状況だったのか。ボン・ヘッファアーやテイリッヒらとの交流、神学者を輩出したニーバー一家のファミリイヒストリーを絡めながら、ニーバーの娘が描き出したもう一つの思想史。巻末に安酸敏眞氏による二万字に及ぶ解説を付し、本書の理解を深める。

責任を負う自己

ヘルムート・R・ニーバー著 小原信訳

ラインホルドの弟ヘルムートが計画したキリスト教倫理三部作の第一部に相当。総論部分にも当たり、責任性を中核に据えて全
面展開した名著。

◆四六判・本体3800円

復活と歴史的理性 神学の方法の研究

リチャード・R・ニーバー著／西谷幸介訳

理性と伝統、歴史と現在、記憶と自然など、神学方法論の根本問題を考察。著者はヘルムートの息子。

◆四六判・本体3500円

9月25日発売



著者エリザベス・シフトン

1939年ニューヨークで生まれた。ラドクリフ大学とパリ大学で学ぶ。多くの出版社で編集者として活躍し、ソール・ペロー、アイザイア・バーリン、ドン・ディリオ、マイケル・イグナティエフ、カルロス・フエンテスら著名な作家たちを手がけた。2019年没。

● 7 月刊行



主イエスの言葉と働き

ルカ福音書 1 章から 10 章による講解説教

ヴァルター・リュティ／野崎卓道訳 ◆四六判・本体 2300 円

スイスの名説教者による珠玉の講解説教 61 編。「リュティの説教に導かれ、御言葉を分かち合い、共に祈る交わりの時は実に祝福に満ちたものです。」(訳者)

● 7 月刊行

次世代への提言!

神学生交流プログラム講演記録集 ◆A5 判・本体 2100 円

日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編

多くの神学校から神学生たちが集まるユニークな交流の場で、荒井猷、小林哲夫、本田哲郎、関田寛雄、杉野榮、青野太潮、森一弘、並木浩一、石田学、神田健次、戒能信生の 11 名が語った講演。次代の教会を担う人たちに多様な立場から贈られた言葉。



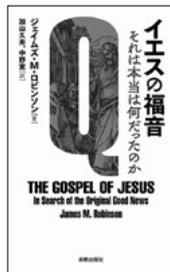
● 6 月刊行

イエスの福音

それは本当は何だったのか ◆四六判変形・本体 3500 円

ジェイムズ・M・ロビンソン／加山久夫・中野実訳

Q 資料やトマス福音書など「言葉福音書」と呼ぶ資料を深く読みこみ、イエスがガリラヤで語った「良き知らせ=福音」の核心、「神の国」に迫る。本書は、長年にわたり斯界を牽引してきた著者の聖書学者としての研究の集大成であり、また一信仰者としての総決算でもある。



●新規オンデマンド化!

▶カール・バルトの生涯 改訂新版

エーバーハルト・ブッシュ著／小川圭治訳 ◆A5 判・768 頁・本体 14000 円

▶組織神学 第一巻

パウル・ティリッヒ著／谷口美智雄訳 ◆A5 判・386 頁・本体 9000 円

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。
A5判・予価8500円

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳

創世記註解 下

旧約註解としてはイザヤ書の次にカルヴァンが手がけた創世記。1550年頃から着手し、くり返し改訂を重ね、63年の決定版に基づく。上巻（渡辺信夫訳）の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。
A5判・予価8500円

カール・バルト著／天野有・宮田光雄訳

教義学要綱 ハンディ版

戦後間もない1946年夏学期、敗戦に打ちひしがれるドイツの学生たちに使徒信条を用いて行った教義学入門。神学全般のみならずバルト神学への入門書としても長く愛読されてきた名著が、天野有・宮田光雄両氏の達意の訳によってより読みやすい姿で甦る。
小B6判・予価2200円

サリー・マクフエイグ著／山下章子訳

ケノーシス 大量消費時代と気候変動危機 における祝福された生き方「仮題」

エコ・フェミニスト神学を力強く牽引してきた著者の最後の著作となった作品。ウルマン、ヴェイユ、テイら先達の生き方に学びながら危機の時代の新たな靈性を探る。いま必要な神学がここから始まる。
A5判・予価4000円

● 8月に出了本と雑

ディズニー変形譚研究

宮平望著 世俗化された福音への信仰



『白雪』から『アナ雪』までのディズニー映像代表作品を完全網羅した研究！子どもから大人まで楽しめるディズニー作品の感動の秘密は何か？全ての作品に巧みに織り込まれた聖書的テーマの変容を丹念に辿ることによって、聖俗の狭間にあるディズニー的世界観の核心に迫る。
◆A5判・本体2000円

▼関連書

ディズニーランド研究

宮平望著 世俗化された天国への巡礼
ディズニーの生涯からテーマパークの仕掛けまで、その魅力を精査した研究。
◆A5判・本体2000円

福音と世界

◆税込6600円

9月号 責任とつら旅路

寄稿者：藤高和輝、大畑凜、韓昇憲、影本剛、金城美幸、生田武志／栗田隆子、金迅野、好井裕明、土井健司、マニユエルヤン、松本あずさ、辻学、長谷川修一、山口政隆、内田樹

●『福音と世界』八月号特集「反・内戦」は、国家・資本のグローバルな統治によるさまざまな攻撃にさらされた状況を「内戦」と呼ぶとともに、この強いられた状況にたいに反対し、あらたな関係性への離脱の方途を探るものでした。執筆者のみなさんの力により充実した内容になったのですが、いっぽうでは、戦争・内戦・反戦の個別の含意をどう整理するのか、民衆による権力との闘争をも含意する内戦に「反」といつてよいのかなど積み残された論点もじつは多くありました。これを深めるため何名かの著者の方とはいまもやりとりを継続しているのですが、先日そこで気づかされたのはCOVID-19の感染拡大によって軍事権力の脱領域的な布置が浮き彫りになっているということ。感染をしばらく封じ込めていた沖繩が隣りに医療崩壊の危機に陥ったのは、いうまでもなく在沖米軍の存在があったからでした。沖繩以外にも、各地の米軍基地で関係者が感染するケースが続発しています。日本の行政が市民に移動を控えろと叫ぶなかで起きたこうした出来事からは、一国家主権の論理を超えた軍事的ネットワークとその移動の実態が見えてくるのです。では、この網を——主権の強化を求めるのではなく、むしろ主権もろとも——い

かに切断するか。直接行動や実力闘争をいたずらに嫌悪し結果的に現状に棹さす微温的な態度は退けつつ、「反戦」の意志も大切にしながら議論をつくり、いずれは読者のみなさんとも共有可能な形にしたいと思います。(堀)

●小社の使命の一つは、キリスト教の古典的なテキストを、信頼できる精度で、しかも常に時代の言語にふさわしい形で新しい読者に提供していくことだと考えています。カルヴァンの『キリスト教綱要』の改訳版や『バルト・セレクション』などの企画は、そうした使命の具体的な現れです。そしていま、十月の刊行を目指して編集作業に取り組んでいるのが、バルトの『教義学要綱』の新訳です。同書は言うまでもなく井上良雄先生の名訳で長く(七〇年近く!)読み継がれてきた現代の古典ですが、このほど天野有先生と宮田光雄先生の共訳という形で「ハンディ版」としてお届けすることになりました。この間のバルト研究の進展を反映したより正確な訳文と訳注、そして敗戦後間もないドイツの青年たちに語りかけたバルトの熱い口調を再現する生彩に富んだ文体は、この名著の魅力を余すところなく伝えてくれます。ご期待下さい。(小林)

福音と世界

2020年
10

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・疫病と文明の終わり

黙示的想像力をとりもどす——パンデミック
資本主義と対峙する解放の神学——有住航
人口対人民——生政治と恒常的危機に抗する
政治的主体の構築——箱田徹
トリアージ・捕虜・廢兵——坂井めぐみ
ウイルス・依存症・エゴジ——村澤和多里
身体と相互作用のこれまでとこれから

この文明には愛エロスがない——酒井隆史

【注目の連載】

- ◆いまを生きるみことば 7 ……金迅野
- ◆I Say a Little Prayer 開かれる世界 7 ……栗田隆子
- ◆新約釈義 第三モテ書 7 ……辻 学
- ◆くまさんのシネマめぐり 10 ……好井裕明
- ◆教父学入門 14 ……土井健司
- ◆バビロンの路上で 19 ……マヨル・ヤン
- ◆遺跡が語る聖書の世界 21 ……長谷川修一
- ◆福音書記者たちの饗宴 22 ……松本あずさ
- ◆私はロックがわからない 25 ……山口政隆
- ◆レヴィナスの時間論 66 ……内田樹